

萩縣報

# 萩月報



第三十七號



昭和六年四月號

山口縣萩町發行

昭和六年四月十三日印刷納本

昭和五年五月六日第三種郵便物認可  
行（每月一回十五日發行）

第三十七號



### 時事提唱

萩月報は過る昭和三年四月之を創刊し爾來滿三箇年を閲て刊行以來本號を以て第三十七回を數ふるに至れり而して本月報の使命とする所は町民諸子をして自己町勢の推移を理解せしめ率て以て町の福祉を増進せむとするに在り即ち識らしめて且由らしめむとするに外ならざるに依り此の主旨に共鳴され將來に於ける町政參書上に付資せられむことを切望して己まざるものなり

萩町より佐々並通山口市を経て防府町に至る鐵道省直營の自動車に依る貨客の運輸開始に關しては昨春以來數回に涉り交通量其の他に付既に大體の調査を遂げたる所あり更に過る三月二十五日鐵道省運輸局營業官及門司鐵道局益子副參事と共に來萩實地踏査の結果急施を要する候補路線なることを認め目下本省に於て事業計劃上に關し審議中の趣なりとの報に接せり尙仄聞する所に依れば本線路中山口防府間は現在の道路の儘を以て之を運轉し得べきも萩山口間は其の曲線路を改修し且橋梁の架換を要するものあり之に對し鐵道省と道路管理者たる山口縣との間交渉を要するものあるが爲萩山口間に於ける運輸の開始は多少遅延するが如く窺はるゝも幸に本縣當局として其の實現に付努力せらるゝ所あるを以て近く協定を遂げ得ることを確信するものなり

萩夏蜜柑の加工に關しては専門技術者銓衡上一時行惱み中の處今回斯界の權威者恩田博士の斡旋に依り京都帝國大學農學部講師松本熊市氏を招聘することゝし且本研究に際しては單に夏蜜柑に止めず廣く萩特産物全般の加工に付指導を受け度き考へなり既に松本講師及農學部長の諒解を得たるを以て不日事業を開始するものとして目下準備中に在り就ては現に是等の加工事業に關係ある諸士は此の好機會を逸せず其の研究試験

のことに參加し本町産業開發の爲努力せられ度きを望むものなり

### 庶般行政

#### 宮廷録事

- 御劍を賜ふの儀 三月七日午後三時二十分勅使として侍從長鈴木貫太郎を 皇后の本宮に差遣はされ御誕生の内親王へ御劍及御袴を賜はりたり
- 行幸 天皇陛下は三月十日午前十一時三十分御出門陸軍戸山學校へ行幸午後一時四十八分還行あらせられたり
- 繼體天皇千四百年式年祭 三月十二日繼體天皇千四百年式年祭の儀を行はせらる
- 皇太后宮行啓 皇太后陛下は三月十三日午後五時十七分大宮御所御出門宮城へ行啓同八時四十五分還御あらせられたり
- 御禮電並御答電 宣仁親王同妃兩殿下佛國に於て厚遇を享けさせられ且つ大統領閣下より同親王殿
- 皇族會議開會 三月二十六日午前十時三十分宮中西溜間に於て開會の皇族會議には 天皇陛下議事を御統理あらせられ議員雍仁親王博恭王、博義王、恒憲王、朝融王、守正王、鳩彦王、稔彦王、永久王、恒徳王、春仁王、各殿下御出席あり、參列員倉富樞密院議長、牧野内大臣、一木宮内大臣、渡邊司法大臣、牧野大審院長、説明委員關屋宮内大臣、仙石宗秩察給裁及松平宮内事務官、岩波宮内事務官出席したり
- 行幸 天皇陛下は三月二十八日午前九時十分御出門學習院へ行幸同十一時五十分還幸あらせられたり

◎帝國議會閉院式 三月二十八日午前十一時貴族院に於て帝國議會閉院式執行相成りたり

◎叙任及辭令

近衛歩兵第四聯隊大隊長陸軍歩兵少佐 岡澤精三

補獨立守備歩兵第二大隊付 歩兵第六十一聯隊附歩兵大尉 玉木正之

和歌山縣立新宮中學校服務を免す

下志津陸軍飛行學校教官兼同校研究部員 陸軍航空兵少佐 黒瀬禎祿

補飛行第八聯隊附 台灣歩兵第一聯隊附陸軍歩兵大尉 椿武忠

補台灣守備隊副官

叙勳六等授瑞寶章

正七位内田耕作 松井武夫

叙勳六等授瑞寶章(以上萩町出身者)

○三月中發令の主要法規○

◎國の法規

◎三月十日陸軍省令第三號を以て陸軍依託學生依託生徒規則中改正の件公布

◎三月十一日遞信省令第二號を以て外國郵便振替規則の件公布

◎三月十四日遞信省令第四號を以て船舶法施行細則中改正の件公布

◎三月十六日遞信省令第五號を以て郵便貯金規則中改正の件公布

◎三月十七日陸軍省令第四號を以て陸軍軍人傷痕記章授與返納、佩用停止及褫奪手續中改正の件公布

◎三月十七日法律第四號を以て郵便法中改正の件公布

◎三月二十八日、遞信省令第七號を以て郵便切手類及收入印紙賣捌規則中改正の件公布

◎三月二十八日付を以て左の諸法律を裁可公布せらる

規則改正のの件公布

◎三月二十六日山口縣訓令第十一號を以て山口縣會計細則改正の件公布

◎萩町告示の主なるもの

一、第一次家屋稅調查委員會議招集の件

一、金子助役死去の件

一、御慶事に關する件

一、町立工業傳習所廢止に關する件

一、萩町區長及區長代理者設置規程中改正の件

一、昭和六年度公種痘施行の件

◎第二回繼續萩町會  
二月二十八日招集したる第二回萩町會は引續き三月四日迄會議を繼續し前號に掲載したる諸議案全部を決定したり

◎各種委員會

◎三月二十六日山口縣令第十一號を以て山口縣會計

◎三月十三日山口縣令第十號を以て大正十年四月山口縣令第三十二號山口縣立女子實業補習學校教員養成所規則中改正の件公布

◎縣の法規

◎三月六日山口縣令第九號を以て大正三年五月山口縣令第三十九號水產業獎勵費交付規則中改正の件公布

◎三月十三日山口縣令第十號を以て大正十年四月山口縣令第三十二號山口縣立女子實業補習學校教員養成所規則中改正の件公布

◎三月二十三日山口縣訓令第十號を以て山口縣下男子中等學校生徒被服の件公布

◎三月二十六日山口縣令第十一號を以て山口縣會計



一三、江向第三區	一二、江向第二區	一一、江向第一區	一〇、唐樋町區	九、御許町第二區
北南西東	西北西南西東	北南西東	北南西東	北南西東
<p>御許町第一區、同第二區及唐樋町區の區劃を境界とす          米屋町下筋の區劃を境界とす          江向第一區の區劃を境界とす          新堀川の中心を境界とす</p>	<p>江向第一區の區劃を境界とす          字平安古の區劃を境界とす          字河添の區劃を境界とす          字河添の區劃を境界とす          德隣寺筋を西に進み水車筋に出で更に北に進み字長藏寺境に至るを境界とす          字長藏寺の區劃を境界とす</p>	<p>橋本町區及御許町第一區の區劃を境界とす          米屋町下り德隣寺角十字路を南に進み八丁筋に出で西に折れ更に左に折れ          萩高等女學校敷地の西側より橋本川の中心に至るを境界とす          橋本川の中心を境界とす          德隣寺筋を境界とす</p>	<p>土原第一區及同第三區の區劃を境界とす          江向第三區の區劃を境界とす          御許町第二區の區劃を境界とす          新堀川の中心を境界とす</p>	<p>土原第一區の區劃を境界とす          御許町第一區の區劃を境界とす          唐樋町第一區の區劃を境界とす</p>

八、御許町第一區	七、橋本町區	六、土原第三區	五、土原第二區	四、土原第一區
北南西東	北南西東	北南西東	北南西東	北南西
<p>川島第三區及土原第一區の區劃を境界とす          字江向の區劃を境界とす          橋本町區の區劃を境界とす          永林寺北角筋達橋を東西に延長したる線を境界とす</p>	<p>川島第二區及同第三區の區劃を境界とす          字江向の區劃を境界とす          橋本川の中心を境界とす          字御許町の區劃を境界とす</p>	<p>松本川の中心を境界とす          新堀川の中心を境界とす          土原第一區及同第二區の區劃を境界とす          字弘法寺第六〇六番宅地及第六〇七番墓地と第六〇九番の一畑地との間より新堀川の中心に至るを境界とす</p>	<p>府扇芝を包含し松本川の中心を境界とす          府縣道と濱坊筋との十字路を西に進み左折して田地と畑地との間を更に南に進み第二〇九番畑地の地先に至るを境界とす          土原第一區の區劃を境界とす          松本小橋の北第三二八番の三畑地と第二九八番の二畑地との間を西に進み馬場の丁を横断して第三二八番宅地と第三二九番宅地との間に於て濱坊筋に出で更に左折し府縣道の十字路に至るを境界とす</p>	<p>川島第三區の區劃を境界とす          井原波止場筋の北第二二六番宅地と第二二七番畑地との間を西に山中町に出で更に南に進み十字路を右に折れ第二〇五番畑地と第二〇六番の一宅地との間を北に進み是より畑地と田地との境界線を黒澤巖に出で萩町公會堂裏に至るを境界とす</p>

二四、古魚店町、北片河町、若町區	二三、吳服町一、二丁目、油屋町區	二二、南片河町、南古萩町區	二一、堀内第一區	二〇、堀内第二區	一九、平安古町第一區
東 北南西東	北南西東	北南西東	北南西東	北南西東	北南西東
字北古萩町の區劃を境界とす	字油屋町及字細工町の區劃を境界とす 字河濠の中心を境界とす 字吳服町一丁目及字南片河町の區劃を境界とす 字榎屋町の區劃を境界とす	字瓦町の區劃を境界とす 字南片河町の區劃を境界とす 字南古萩町の區劃及新堀川の中心を境界とす 字古魚店字春若町字細工町及字惠美須町の區劃を境界とす	字堀内第一區の區劃を境界とす 字堀内第二區の區劃を境界とす 字菊ヶ濱より海面に至るを境界とす	片河濠の中心を境界とす 堀内第一區の區劃を境界とす 堀内第二區の區劃を境界とす	片河濠の中心を境界とす 西ノ濱より海面に至るを境界とす 新堀川及橋本川の中心を境界とす 片河濠の脇堀内第三四五番畑地と第三四八番畑地との間を西方に本町と馬場の通の中央を進み第二六〇番畑地と第二六一番畑地との間を西方に本町と學校本門通に出で、右折し本町十字路を西に衝當り更に右折して天樹を萩中十字路を西方に至り、是より右折し字堀内と字西の濱との間に西ノ濱海面に至るを境界とす

一四、江向第四區	一五、河添第一區	一六、河添第二區	一七、平安古町第一區	一八、平安古町第二區	一九、平安古町第三區
北南西東	北南西東	北南西東	北南西東	北南西東	北南西東
江向第三區の區劃を境界とす 水車筋の中心を境界とす 新堀川の中心を境界とす	江向第一區の區劃及橋本川の中心を境界とす 中の丁筋の中心を境界とす 橋本川の中心を境界とす 江向第二區の區劃を境界とす	河添第一區の區劃を境界とす 橋本川の中心を境界とす 中島を包含し橋本川の中心を境界とす 江向第二區及字平安古の區劃を境界とす	江向第二區及河添第二區の區劃を境界とす 石屋町筋の中心を境界とす 橋本川の中心を境界とす 萬行寺筋の境界とす	平安古町第一區の區劃を境界とす 橋本川及新堀川の中心を境界とす 平安古町第一區の區劃及橋本川の中心を境界とす 新堀川の中心を境界とす 萬行寺筋と石屋町筋との十字路を西北に進み新堀川の中心に至るを境界とす	江向第四區の區劃を境界とす 平安古町第二區の區劃及新堀川の中心を境界とす 江向第二區及平安古町第一區の區劃を境界とす 新堀川の中心を境界とす

三四、西田町區	三三、東二田區町	三二、東一田區町	三一、米屋町區	三〇、惠美須町區
北南西東	北南西東	北南西東	西北西南南西東	北南西東 東北
東田町第一區の區劃を境界とす 瓦町區及米屋町區の區劃を境界とす 新堀川の中心を境界とす 字津守町及字上五間町の區劃を境界とす	新堀川の中心を境界とす 東田町第一區の區劃を境界とす 新堀川の中心を境界とす 字吉田町及字下五間町の區劃を境界とす	井町筋を南に進み第六三番宅地と第六二番の二宅地との間の溝渠の中心を更に南に新堀川の中心に至るを境界とす 字西田町の中心を境界とす 新堀川の中心を境界とす 字上五間町及字下五間町の區劃を境界とす	字津守町の區劃を境界とす 惠美須町の區劃を境界とす 字西田町の區劃を境界とす 瓦町區の第一區の區劃を境界とす 北古萩町の第一區の區劃を境界とす 字鹽屋町の區劃を境界とす	字米屋町の區劃を境界とす 字油屋町の區劃を境界とす 字吳服町の二丁目及字瓦町の區劃を境界とす 鹽屋町細工町區の區劃を境界とす

二九、瓦町區	二八、鹽屋町區	二七、北古萩區町	二六、北古萩區	二五、樽屋町今魚店町區
北南西東	北西南西東	北南西東	北東南西南西東	北南西
字新堀川の中心を境界とす 字惠美須町の區劃を境界とす	字西田町の區劃を境界とす 字吳服町の二丁目及字瓦町の區劃を境界とす 北古萩町第一區及字樽屋町の區劃を境界とす 字油屋町の區劃を境界とす 字惠美須町の區劃を境界とす	北古萩町第一區及字米屋町の區劃を境界とす 字春若町及字樽屋町の區劃を境界とす 字惠美須町の區劃を境界とす 北古萩町第一區及字樽屋町の區劃を境界とす 北古萩町第一區及字樽屋町の區劃を境界とす	字濱崎新町の區劃を境界とす 北古萩町第一區の區劃を境界とす 菊ヶ濱海面に至るを境界とす 北古萩町第一區の區劃を境界とす 地先を菊ヶ濱海面に至るを境界とす 番崎新町の區劃を境界とす 間にある溝渠の中心を菊ヶ濱海面に至るを境界とす	字北片河町の區劃を境界とし飯田町尻道路より片河濠に出で同濠の中心を北に進み菊ヶ濱海面に至るを境界とす 菊ヶ濱海面に至るを境界とす 字津守町及字米屋町の區劃を境界とす 字鹽屋町の區劃を境界とす 字濱崎新町の區劃を境界とす み菊ヶ濱海面に至るを境界とす

四五、 濱崎第一區	四四、 濱崎第一區	四三、 濱崎第二區	四二、 濱崎第一區	四一、 熊谷町區	四〇、 今古萩町區
北南西東	北南西東	北南西東	北南西東	北南西東	北南
濱崎第一區の區劃を境界とす	濱崎第一區の區劃を境界とす	濱崎第一區の區劃を境界とす	濱崎第一區の區劃を境界とす	濱崎第一區の區劃を境界とす	上五間町區及下五間町區の區劃を境界とす

三五、 津守町區	三六、 上五間町區	三七、 下五間町區	三八、 吉田町區	三九、 古萩町區
東北	北南西東	北南西東	北南西東	北南西東
津守町第一區の區劃を境界とす	津守町第一區及西田町區の區劃を境界とす	上五間町區の區劃を境界とす	下五間町區の區劃を境界とす	新堀川第一區の區劃を境界とす





六四、鶴江第二區	北南西東	香川津北區及鶴江第一區の區劃を境界とす 海面に至るを境界とす 松本川の中心を境界とす 海面に至るを境界とす
----------	------	--

一、同上規程第一條の名稱及區域中左の通改む

六五、前一小畑區	北南西東	福川村及中ノ倉第一區同第二區松本市區無田ヶ原區の區劃を境界とす 鐵道線路を境界とす 香川津東區の區劃を境界とす 後小畑區の區劃を境界とす
----------	------	---

六六、前一小畑區  
後地區を廢し前一小畑區中鐵道線路の西北部一圓及從來の西北區を合し本區を置く

六七、前一小畑區	北南西東	前小畑第一區の區劃を境界とす 海面に至るを境界とす 香川津東區の區劃を境界とす 字小畑浦の境界より妙見山の頂上に至る線を境界とす 妙見山の頂上より後山の頂上に至るを境界とす 海面に至るを境界とす 前小畑第二區の區劃を境界とす 府縣道境界とし南は元椿東魚市場入口より海面に至り北は字小畑浦第五、二番宅地と第五、二番宅地との間より字後山の區劃に至るを境界とす
----------	------	--

六八、前一小畑區	北南西東	字後小畑及字神田の區劃を境界とし其の他は後山の頂上に至るを境界とす 小畑浦第一區の區劃を境界とす 海面に至るを境界とす 後山の頂上より妙見山の頂上に至るを境界とす 小畑浦第一區の區劃を境界とす
----------	------	--

六九、後小畑區	北南西東	大井村及福川村境を境界とす 前小畑第二區及小畑浦第一區同第二區の區劃より海面に至るを境界とす 府縣道字釜屋と字馬の鞍とす 進み代官山に至り字大渡と字小野境を猪之熊隧道入口に至り第一、〇四〇番の三田地を除きたる鐵道線路を境界とす
---------	------	--

七〇、前一小畑區	北南西東	後小畑區の區劃を境界とす 海面に至るを境界とす 字越ヶ濱第六、二九〇番雜種地と第六、三〇七番雜種地との間を北に進み 屈折して字越ヶ濱第六、二九四番宅地と第六、二九六番宅地との間を東に 北に進み本町を横斷し中善寺及墓地の西境を直進して道路に出で東に屈折し第六、二九九番の五宅地と同番の二宅地との間に至るを境界とす
----------	------	---

七一、越ヶ濱第二區	北南西東	越ヶ濱第一區の區劃を境界とす 字越ヶ濱第六、三四一番宅地と第六、三六五番宅地との間の道路を北に進み 本町に出で東に折れ第六、三二一番宅地と第六、三四〇番宅地との間の道路を 更に北に進み第六、三二一番宅地と第六、三四八番の一宅地との間を出で 海面に至るを境界とす 海面に至るを境界とす 越ヶ濱第二區の區劃を境界とす 字越ヶ濱第六、三二八番宅地と第六、三七四番宅地との間の小徑を北
-----------	------	---

七八、 大屋 區	七七、 沖原 區	七六、 霧谷 區	七五、 越嶺 區
東西南北	東西南北	東西南北	東西南北
南方に出で椿八幡宮前馬場に通ずる山の手道路に至るを境とす	井手原と松本川の中心を境とす	大屋川と霧谷の中心を境とす	越嶺港と越嶺の中心を境とす

七四、 越嶺 區	七三、 越嶺 區	七二、 越嶺 區
北西南東	北西南東	北西南東
越嶺港と越嶺の中心を境とす	越嶺港と越嶺の中心を境とす	越嶺港と越嶺の中心を境とす





九六、倉江區	北南西東	橋本川の中心及玉江浦第一區全第二區の區劃を境界とす 宇倉江と宇長迫との間より山の尾を登り大平山の辻に至るを境界とす 海面に至るを境界とす
九七、小原區	北南西東	倉江區の區劃を境界とす 三見村境を境界とす 玉江第一區の區劃を境界とす 海面に至るを境界とす

一、同上規定第一條の次に左の一條を加ふ

第二條、每區に區長を置く其の位置は別に之を定む

三、同上規程第二條を第三條とし以下順次條數を繰下ぐ

附 西 則

本規程は昭和六年四月一日より之を施行す

### 學 事

#### 萩商業學校職員異動

萩商業學校教諭に任す 加治 榮  
山口縣立徳山高高等女學校教諭 吉村時比古  
萩商業學校教諭に任す 清水 一良  
萩商業學校教諭 島 龜萬彦  
各通 萩商業學校 教諭 井町常三郎  
同 校助教諭 山口 縣  
願に依り本職を免す  
以上三月三十一日付

#### 小學校職員異動

萩町明倫小學校訓導 伊藤 光雄

任阿武郡小川尋常高等小學校訓導兼校長

萩町白水小學校訓導 池田 彦三

同見島尋常高等小學校訓導兼校長

萩町椿東小學校訓導 伊藤 英一

同生雲尋常高等小學校訓導

萩町明倫小學校訓導 内藤 ヨシコ

同佐々並實業補習學校助教諭

萩町椿東小學校訓導 岡 和子

同明倫尋常高等小學校訓導

萩町越ヶ濱小學校訓導 岡 澄子

同椿東尋常高等小學校訓導

萩町白水小學校訓導兼心得 村岡 愛子

同椿東尋常高等小學校訓導兼心得

美禰郡秋吉小學校訓導 渡邊 トキハ

同明倫尋常高等小學校訓導

同明倫尋常高等小學校訓導 世良 正夫

同明倫尋常高等小學校訓導

同明倫尋常高等小學校訓導 大田 博邦

同明倫尋常高等小學校訓導

阿武郡吉部小學校訓導 原 惣和

任阿武郡明倫尋常高等小學校訓導 境 クラ  
 阿武郡佐々並實業補習學校助教諭 境 クラ  
 同明倫尋常高等小學校訓導 山本 優  
 休職大嶋郡明新小學校訓導 山口 朝  
 同明倫尋常高等小學校訓導 德田 清子  
 同明倫尋常高等小學校訓導 小川 正介  
 同椿東尋常高等小學校訓導 富田 文子  
 同椿東尋常高等小學校訓導 山根 豊  
 同椿東尋常高等小學校訓導 大谷 昌夫  
 同越ヶ濱尋常高等小學校訓導 河野 正人  
 同越ヶ濱尋常高等小學校訓導 伊藤 金熊  
 同椿西尋常高等小學校訓導 村上 俊夫  
 阿武郡福川小學校訓導

同椿西尋常高等小學校訓導 井町たのし  
 同白水尋常高等小學校訓導 大田 朝  
 同白水尋常高等小學校訓導 西山 正子  
 同白水尋常高等小學校訓導 堀田 斷藏  
 同白水尋常高等小學校訓導 木藤 梅吉  
 同白水尋常高等小學校訓導 一來 虎一  
 同白水尋常高等小學校訓導 伊藤 幾助  
 同白水尋常高等小學校訓導 安野 廣松  
 同白水尋常高等小學校訓導 宗實 宗一  
 同白水尋常高等小學校訓導 尾川 ミツ  
 同白水尋常高等小學校訓導 小島 基  
 同白水尋常高等小學校訓導 長谷 武光  
 同白水尋常高等小學校訓導 命 命  
 同白水尋常高等小學校訓導 命 命

萩商業學校職員任命

萩町内中等學校卒業式

萩町内各中等學校は左の日に於て卒業式を舉行したり  
 三月三日午前十時 山口縣立萩中學校  
 三月八日午前十時 萩町立萩商業學校  
 三月二十日午前十時 山口縣立萩高等女學校  
 三月廿五日午前十時 財團法人私立萩修善女學校

縣立萩高等女學校本科 定員増加並實科廢止

三月三十一日山口縣令第十三號を以て大正四年十二月山口縣令第三十九號山口縣立高等女學校規則中左の通改正し昭和六年四月一日より之を實施する旨公示ありたり  
 第一條中萩高等女學校本科生徒定員「四〇〇」を「六〇〇」に改め「實科二箇年一〇〇」を削る  
 但し本令施行の際現に在學する實科生徒に關しては其の卒業に至るまで従前の規則に依る

町立三小學校の増築認可

右三月三十一日付を以て萩町立萩商業學校實踐科教師として任命(萩商業學校)  
 九尾 誠二  
 椿東椿西白水三小學校の増築に付ては曩に認可申請中の處其の財政計畫に關し照復を重ね延期の己むなきに至りたる折柄三月三十一日付本縣知事より申請の認可の指令ありたり而して本建築は昭和五年度より昭和七年度に至る繼續事業として之を行ふものに係り近く實施設計を了り次第工事に著手の見込なり

町立小學校教員住宅料 縣費補助

昭和五年度萩町小學校教員住宅費補助として金壹百五拾壹圓貳拾錢を交付の旨三月三十一日付本縣知事より指令ありたり

◎學事統計研究會

三月十八日十九日兩日間萩町役場樓上に於て本縣主催に係る阿武郡内各町村學務主任集會を開催伊勢福縣統計主事補藤井縣書記臨席の下に學事統計事務に關し研究を遂げたり

◎町内小學校及實業補習學校實業教員協議會

三月十二日午後一時より町衙樓上に於て恒例に依る各小學校農業教員及實業補習學校教員の協議會を開催し農業及水産科に關する指導方に付研究する所ありたり

◎小學校へ雨傘寄附

當町木間區主婦會より木間小學校備付として雨傘八十本寄附ありたり其の厚意を感謝す

るや直に身を挺して之を救助せるの行爲洵に奇特なり仍つて硯箱一箇を授與し之を表彰す  
昭和六年三月廿四日  
山口縣阿武郡明倫尋常高等小學校長

◎明倫小學校の陸軍記念日に於ける舉式並に校外遠足

三月十日午前九時より校庭に於て陸軍記念日の式を舉行學校長の訓話後奉天會戰の唱歌を合唱しそれより當日の記念日を意義あらしむべく身心を鍛鍊する目的のもとに左記の通高二男兒童を除く全校兒童の校外遠足を實施し何れも旺盛なる元氣にて午後三時頃歸校せり

尋一、二 志都岐公園及菊ヶ濱 尋三倉江 尋四松本及長添山 尋五七曲り 尋六以上(高二男を除く)田床山

◎明倫小學校高二兒童の社會見學

三月十五日午後一時より本校裁縫室に於て開催せり當日は開會の挨拶に次いで「志」の朗誦をな

◎明倫小學校第四十六回卒業式

三月廿五日午前十時より林町長を初め多數來賓及保護者の臨場を得第四十六回卒業式を同校講堂に於て舉行す君が代勅語奉讀勸語奉答學事報告をより本年度卒業生に對し證書並に賞品を授與し終つて學校長より最後の誨告あり林町長及來賓總代朝枝三藏氏の祝辭に次いで岡崎寶作卒業兒童を代表し答辭を述べ岡田誠道氏より父兄保護者を代表しての謝辭あり修業生の「別れの歌」卒業生の「仰げば尊し」を合唱し午前十一時三十分式を閉ぢたり

因に本年度卒業兒童は高等科百八名尋常科三百三十四名にして内八ヶ年皆勤者一名精勤者二名六ヶ年皆勤者三名精勤者三名あり尙善行兒童として表彰したる者次の如し

表 彰 狀

高等科第二學年

上 田 惣 一

昭和五年九月七日阿武川下流に於て溺水者を發見す

本校を卒業する高等科男女兒童に對しては其の年三月中社會見學を行ひ實地の指導を試むることとせり本年も此の趣旨に依り三月四日萩町役場五日萩郵便局六日萩區裁判所十一日萩驛十九日堀内附近の農場其の他を見學せしめ大いに益する所ありたり

◎明倫小學校新入學兒童の身體検査

本年四月新に尋常科第一學年に入學すべき兒童並に保護者を召集し三月五日より三日間身體検査並素質調査を實施し保護者に對しては新學年の準備其の他諸注意につき懇談を遂げたり因に新入學兒童數は男子百六十六名女子百七十二名合計三百三十八名なり

◎明倫小學校高等科二學年兒童の修養會

本年三月卒業の高等科第二學年男女兒童の修養會を三月十五日の日曜日午後一時より本校裁縫室に於て開催せり當日は開會の挨拶に次いで「志」の朗誦をな

し校長並に列席職員の講話後兒童の意見發表を行ひ  
休憩の後茶話會に移り唱歌仰げば尊しを合唱して午  
後五時解散せり

●明倫小學校第二回母の  
會開催

本校は曩に教育勅語煥發四十周年記念事業の一とし  
て母の會を創設し昨年十月十八日之が第一回を開催  
又本年三月六日全國に於ける母の記念日をとし第二  
回を午後二時より萩町公會堂に於て開催せり、當日  
は五百餘名に上る多數の出席者ありて君が代勅語奉  
讀終つて皇室の御慶事に對し奉り國母陛下の御安泰  
を祈り學校長の挨拶後講師與風中學校長山根文平氏  
は「家庭は修養の道場なり」と題して母たるもの、修  
養に付三時間に亘る講演あり一同大いに感動し午後  
四時盛會裡に閉會せり

●明倫小學校卒業記念兒童  
成績品展覽會

佐賀市神野小學校校長濱野素次郎、京都府加佐郡倉  
梯小學校校長坂本蜜之助、山口縣師範學校教員西山  
瀧藏、海軍兵學校教官生徒約八十名、大阪毎日新  
聞山口通信部主任東忠績外二名、門司水上署詰巡  
査能塚森雄外一名、愛媛縣越智郡岡山村藤原勝利  
下關市向山小學校教員宮崎匠、小倉市米町小學校  
三長岡野義城、小倉市米町小學校教員南野廉夫、宇  
部市沖の山小學校安里永二

●椿東校國語科研究會

三月四日、五日兩日間國語科研究會を開催す、指導  
者は山口師範學校附屬小學校訓導三輪一男氏にして  
萩町各校よりも多數の参加者あり、三輪訓導の尋五  
女、高二男の指導教授、福湯訓導尋二研究教授等の  
實際指導、並に指導者の講演ありて五日午後三時盛  
況裡に閉會

●椿東校地久節奉拜式

三月六日午前九時校庭に於て地久節の奉拜式を舉行

本年度最終の行事として三月廿四日卒業式當日及翌  
廿五日修業式當日の二日間全校兒童の圖書畫方綴方  
手工裁縫手藝等の成績品を第二校舎に陳列し兒童並  
に一般の縦覽に供したり兩日共幸に天候に恵まれ多  
數の觀覽者ありて盛況を極めたり

●明倫小學校來校視察者

三月中に於ける本校來校視察者の主なる者左の如し  
吉敷郡大内小學校校長藤井信張、吉敷郡井關小學校  
教員塚本太郎、吉敷郡小郡小學校教員得金芳一、  
吉敷郡黒山小學校教員本廣洋一、吉敷郡仁保小學  
校教員百村作治、吉敷郡大海小學校教員溝部休、  
山口野田女學校校長野村吉次、帝國軍艦大井乘組員  
河村中尉以下五十五名、三等船匠兵曹岡清正外二  
十名、臺灣總督府囑託宮地蒼生夫、廣島縣雙三郡  
神於小學校校長福政憲造、岡山縣津山市津山小學校  
長坂田義一、岡山縣津山市院庄小學校長今井善吉  
岡山縣津山市林田小學校長青井荒一、岡山縣津山  
市高宮小學校校長濱田中、山口縣屬石田梯一外一名  
す、東方遙拜、學校長訓告、それより各學級共學年  
に應じて詳細の訓告を爲せり

●椿東校新入學兒童調査

三月六日七日の兩日を以て來る四月八日に尋常科第  
一學年に入學すべき兒童の身体検査、同十九日、二  
十日の兩日を以て能力調査及家庭調査を行へり

●椿東校に於ける内親王殿  
下御誕生奉拜式

三月七日内親王殿下御誕生に付直に校内揭示を以て  
全校に通じ、八日は日曜日なるに依り九日午前九時  
校庭に於て奉拜式を舉行せり

●椿東校部落學藝會

三月八日午前十時より松陰神社記念館に於て中の倉  
松本市、椎原區主催の部落學藝會を舉行す、來觀者  
場内に溢れ頗る盛況裡に午後四時閉會せり、因に同

區有志者、婦人會員男女青年團員の諸氏は場内の設備、教育參考資料、圖表陳列、場内整理、兒童監護等の爲終始熱心に斡旋せられたり

●椿東校陸軍記念日行事

三月十日午前九時より校庭に於て記念講演を、同九時三十分より卒業生送別を兼ねたる第二回年齢別競技會を舉行尚正午より昭和五年度に於ける、体育圖書、書方科に於ける優秀兒童に對し記念メタルの授與式を行ひ、午後は職員研究發表會を催したり

●椿東校教育後援會總會

三月十四日午後一時より椿東校に於て椿東教育後援會總會を舉行す、全校兒童の唱歌會に引續き片山副會長の挨拶並に昭和五年度決算報告、同六年度行事豫定等の會務に付報告あり、午後四時閉會

●椿東校卒業式

吉村清、村木門正、烏田胤雄、松本卯助 卒業二ケ年間皆勤せる者男五名女五名

尋常科 本學年間皆勤せる者男六名女一名 尋常科 操行善良、學業優秀にして且つ六ケ年精勤せし者

白石誠、中原吉矩、田中敏之、山川源次郎、小柴辰雄、守永正夫、中村五郎、溝部秀夫、山本長人、厚東智恵子、岡田公子、淵ユキ子、河村タカ子、三浦イル子、片山タマキ、山根ミネ、村木幸子

學力の進歩顯著なる者 田中直光、門司孝夫、大田勝治、中村久雄、若松重吉、荒川通郎、齋藤正男、村木マサコ、中村カズエ、末岡美代子、柴田シナ、松田壽美子、岡崎ユキコ 六ケ年間精勤せる者 伊藤良助 本學年間皆勤せる者

三月二十五日午前十時より第三十九回卒業式を舉行せり卒業兒童數其の他左の如し

高等科卒業男五〇名 女二八名 尋常科卒業男七三名 女六三名 受賞兒童

高等科卒業兒童 學業優秀、操行善良にして、且つ役員として精勤せし者

石村豊徳、小林正次郎、谷本松雄、井上清一、石丸海男、中原幾藏、堀五郎

伊藤要 學業の進歩顯著にして且つ役員として精勤せし者

伊藤要 操行善良、學業優秀なる者

守永フミ子、吉村澄子、大谷タツコ、烏田キミコ

學業の進歩顯著なる者 吉村百合男、林隆一、井町巖、三輪政雄、松村芳子、藤本スエコ

役員として精勤せし者 男一一名女一四名

身體優良なる者 小柴辰雄、村木幸子

第二回縣下學童書方展覽會に於て成績優秀なる者 吉村清(高卒)石村豊徳(高卒)

岩崎善勝(尋卒)中村五郎(尋卒)小柴辰雄(尋卒)厚東智恵子(尋卒)

本校創立以來の卒業兒童數 高等科一九六八 尋常科四七二一名

本年度卒業兒童進學志望狀況 高等科 男中學校二、商業學校二

尋常科 女高等女學校二 男中學校一、商業學校四

女高等女學校一三

●椿東校修業式

三月二十六日午前九時より修業式を舉行す

修業兒童 男四八一 女四三九

受賞兒童 學業優秀操行善良なる者 九五名  
學力の進歩顯著なる者 三一名  
一ヶ年間皆勤せる者 一三八名

● 椿東校成績品展覽會

三月二十五日、二十六日の両日の卒業式、修業式當日を以て兒童成績品展覽會を舉行せり

● 木間小學校學藝會

三月八日午前八時より第三十二回學藝會を開催。朗誦朗讀獨唱、對話遊戲等ありたる後來賓及父兄の感想、男女青年團員の餘興等あり、此の日多數の父兄母姉共來觀ありて盛會裡に午後四時閉會したり

● 町立各小學校卒業兒童數

萩町立各小學校は三月中夫々卒業式を舉行せり其の卒業兒童數等左の如し

校名 吉名 日本町時 卒業 兒童數

● 町立實業補習學校縣費補助

昭和五年度萩町實業補習教育費補助として金壹千拾六圓八拾八錢を交付の旨三月三十一日付本縣知事より指令ありたり

● 明倫實業補習學校卒業

並に修業式

三月廿四日午前十時より明倫小學校講堂に於て小學校卒業式に併せて第一回卒業式並に修業式を行ひ卒業生四十四名修業生五十五名に對しそれ／＼卒業證書並修業證書を授與し學校長の誨告林町長及來賓の祝辭に對して内田茂卒業生一同を代表し答辭を述べ午前十一時三十分式を閉ぢたり  
因に當日の授賞者左の如し

- 卒業生 内田茂
- 成績特別優等 内田茂
- 成績優等 伊勢島松治 中谷正一 田中富藏 山本滿太郎 細川仁三郎

明倫尋常高等小學校	三月廿四日 午前十時	高等科男 五五人	女 五三人
椿東尋常高等小學校	三月廿五日 午前十時	高等科男 五〇	女 二八
越ヶ濱尋常高等小學校	同上	高等科男 一八	女 九
椿西尋常高等小學校	同日午前九時三十分	高等科男 一九	女 九
白水尋常高等小學校	同日	高等科男 三八	女 一六
木間尋常高等小學校	三月廿六日 午前十時	高等科男 七	女 八
尋常科卒業兒童數合計		男 三九五	女 三八八
高等科卒業兒童數合計		男 一八七	女 一〇〇

● 町内實業補習學校長協議會

三月十六日午前九時より町衙樓上に於て各實業補習學校長の協議會を開催改正實業補習學校設置要項に基く學則設定の件並實業補習教育更張に關し協議せり

二ヶ年間皆勤 中村誠

一ヶ年間皆勤 細川仁三郎

修業生

一ヶ年間皆勤 高橋富三郎

精勤者 堀一男 黒田和男 河野芳春 塩屋一夫 關屋富士一 柴田松雄 篠原正 原正一 時山秀男

● 明倫實業補習學校生徒募集

去る三月廿四日第一回卒業生を出したる本校としては更に本年度より内容の完備充實に力め新に本科第一學年に入學せしむべき生徒募集中に在り高等小學校卒業生又はこれと同等以上の學力を有する者はその本籍地の如何を問はず入學を許可する筈にて三月末までの出願者も相當多數に上り尙引續き募集中なり

● 椿東實業補習學校卒業狀況

卒業 男 二二、女 一

二ヶ年間精勤せる者 三  
福田義雄、岡崎信正、中谷五、田中富彌、山  
一ヶ年間精勤せる者 田、三、八、

本二、矢次一熊、林清治、深川好治

本一、原田竹介、未益竹松、日隈伊助、田中時雄

◎青年訓練所教練指導員異動

萩町立木間青年訓練所 指導員 中原市五郎

嘱託を解く 山根 新一

萩町立木間青年訓練所指導員を嘱託す

以上三月三十一日付 山口 縣

◎青年訓練所教練指導員

三月十六日午前九時より萩中學校に於て恒例に依る

青年訓練所教練指導員實習會を開催萩中學校青木教

官、青年訓練所顧問市川大佐以下各顧問並教練指導員等全部會合し教練實施に關し研究及協議を遂げたり

◎青年訓練所費縣費補助

昭和五年度當町立青年訓練所費に對し縣費補助金四百貳圓交付の指令ありたり(三月十八日付)

◎明倫青年訓練所修了式

三月十三日午後八時半より明倫小學校内に於て一、二次生徒の修了式を舉行し修了生一年次二十七名、二年次三十二名の内出席良好なるを以て主事より賞状並に賞品を受けたる者左の如し  
皆勤者 二年次生徒中村鐵雄 同藤原源吉 一年次生徒藤原誠二  
精勤者 二年次生徒 田中清 一年次生徒山本亥助 同内田茂 同中野清 同福山武夫 同大野次咲

護婦の病人に對する食事、並に取扱に就ての指導講演あり、午後四時三十分閉會

◎小學教員並幼稚園保姆試驗檢定執行

三月十日山口縣告示第百七十二號を以て五月十七日より小學校教員試驗檢定及幼稚園保姆試驗檢定を施行せらるゝに付受験希望の者は萩町役場學務課に就き手續其の他詳細なる事項を承知せらるべし

産業

◎産牛畜産組合役員選任

本縣知事より阿武郡産牛畜産組合役員選任の件三月九日付左記の通認可せらる

選任 組合長 山根 辨作  
同 組合副長 山根 薫

◎明倫青年團主催の活動寫眞會

明倫青年團事業の一として社會教化の目的の下に三月十日陸軍記念日をトし本縣より石田縣屬及技手一名の出張を乞ひ午後七時より萩町公會堂に於て活動寫眞映畫會を開催伊藤團長の挨拶後左記題目の上映を爲し十時半閉會せり當日の一般觀覽者は約二千名の多數に上り頗る盛況を呈したり、此の催しに對し縣電氣局萩出張所よりは電力の提供に付便宜を與へられ事業遂行上多大の援助を蒙りしことに對し深く感謝する所なり

上映題目

漫畫蛙は蛙全一卷 虛榮は地獄全二卷 御親閱

工業全二卷 愛の燈台守全五卷 萩史績映畫

◎椿東女子青年團月例會

三月二日午後二時三十分より椿東校に於て椿東女子青年團三月例會を開く、集合者二十名、金山學校看

●萩町立工業傳習所傳習生  
修了證書授與式並同所閉  
所式舉行

三月三十一日午後一時萩町役場に於て第七回萩町立工業傳習所傳習生七名に對し修了證書を授與し引續き同所閉所式を舉行したり

●新酒品評會入賞者

第五回阿武大津兩郡酒造組合の主催を以て三月二十八日新酒品評會を萩稅務署内に開催せり萩町内に於ける入賞者左の如し

優等	長陽福娘	岩崎小一
一等	大漁	中村開輔 東庫
二等	巴城櫻	中村開輔 西庫
二等	一〇正宗	松本圭一
三等	東雲	上利久一
三等	玉椿	山田七郎

●産業相談所の状況

萩町役場内に設置したる産業相談所を利用したる者  
三月中の總件數左の如し

農業二件	商業一件	林業三件	畜産業一件	水産業一件
合計八件				

●株式會社大萩市場

豫而申請中の株式會社大萩市場は三月十七日付本縣知事の許可を得其の事務所を吉田町第十六番地の一新築し近く開場の運びとなれり

●昭和六年三月中萩港輸  
出入貿易

品名	輸出の部	仕向地
蜜柑	一五〇圓	關東州
詰詰	二九〇	同

●漁船遭難者の弔慰

萩町藤山清太郎、藤山正助兩氏所有第三第七及第八鱗成丸の三艘は昨秋より青島を根據地とし支那海に於て機船底曳網漁業に従事本年一月十日の暴風雪に遭難し船体沈没と同時に乗組員貳拾五名の内死亡者二十一名(萩町出身者中死亡者十二名)の遺族に對し死亡者一名毎に青島水産組合より慰藉並弔慰料其の他青島一般同情者六百四十餘名より慰問金等合計金參百拾貳圓參拾壹錢の外生存者四名(萩町出身者中生存者三名)に對し一名毎に青島水産組合及青島一般同情者より見舞金壹百圓宛を贈與方依頼ありたるに依り萩町長は四月一日關係者を町役場に招致し夫々交付を了したり尙當時青島に於ける各有志は今回の遭難に對し各機關を通じ搜索救助に盡力せられ或は海難者の爲盛大なる追悼會を主催されたるのみならず義捐金募集等各般に涉り深甚なる同情を寄せられたる如きは眞に感謝に堪へざることなりとす

其の他の食料品	六三	同
竹製品	五〇	同
其他	一二	同
計	五六五	一九
一月以降累計	三、七一四	一八三
輸入の部		
無し		
一月以降累計		

●昭和六年三月中町立  
萩魚市場賣買取扱高

區分	本月分賣買取扱高	年度内累計
萩魚市場	四九、二四七、三三〇	五四六、四七九、六六〇
越ヶ濱出張所	一四、八八七、三〇〇	一九二、三〇六、六四〇
玉江出張所	三、九四、七九〇	六八、八七、五二〇
計	六八、〇四九、四七〇	八〇七、六三、八四〇

●三月中の氣象

氣温平均 最高氣温 最低氣温 雨雪量  
 一二度三〇 一四度五〇 四度八〇 一四九厘七

●三月中風向觀測

北北東 東 南東 西 南西 西 北西 靜穩 最多方向  
 三 一 三 三 三 九 四 五 西

●三月中天氣類別日數

種別	快晴	曇	雪	霞	霜	濃電	地震	最高	最低
日數	四	二	二	六	一	一	三	一	一

●今月の園藝行事

野 菜  
 下種 菜豆、枝豆、西瓜、越瓜、春蒔甘藍、花柳芽  
 玉チシャ、夏蕪、二十日大根、葱等  
 移植 先月下種せし茄子、胡瓜、藩茄等  
 施肥 葱頭、馬鈴薯、午茅、草蓐人蓐の追肥

收穫 一月下種せし胡瓜の採果

果 樹

病虫害の防除 桃、梨、柿、柑橘、葡萄等に藥劑の

散布が肝要

花 卉

植込 ダリヤ、カンナ、グラシヨラス、睡蓮

財政經濟

●昭和五年度隨時家屋稅賦課

昭和五年四月一日現在に依り定時の賦課を爲したる以後に於て建築したる家屋に對し第一次家屋稅調査委員調査の結果に依り本縣知事に於て決定したる賃貸價格の總額は金壹萬壹千九百拾貳圓總構數八拾戶にして之を建築の翌月より月割を以て賦課したる縣稅額金百四拾貳圓七拾參錢同附加町稅額金七拾九圓五拾八錢なり

●昭和五年度隨時特別稅戶數割賦課

昭和五年四月一日現在に依り定時の賦課を爲したる以後に於て一戸を構へ又は獨立の生計を營むに至りたる者に對し隨時特別稅戶數割を賦課したる金額及人員左の如し

賦課したる月	課稅年額	月割賦課額	賦課人員
昭和五年十二月	九百九圓	七十八圓	一六八人
同 六年三月	三六四、四一	一六、八元	五
計	一、三四、〇元	八八、三元	二〇四

●昭和六年度縣稅賦課率

府縣制第八十五條第三項に依り内務大臣の指揮を受け決定公布せられたる昭和六年度の縣稅賦課率左の如し

一、地租附加稅 宅地租壹圓に付金四拾九錢九厘  
 其の他地租壹圓に付金壹圓貳拾壹錢八厘

- 一、特別地稅 地價壹圓に付金五錢四厘八毛壹糸
- 一、營業收益稅附加稅 本稅壹圓に付金六拾錢貳厘
- 一、所得稅附加稅 本稅壹圓に付金參拾五錢貳厘
- 一、鑛業稅附加稅
  - 鑛產稅本稅壹圓に付金拾錢
  - 探掘鑛區稅本稅壹圓に付金七錢
  - 試掘鑛區稅本稅壹圓に付金參錢
- 一、砂鑛區稅附加稅 本稅壹圓に付金拾錢
- 一、家屋稅 家屋賃貸價格壹圓に付金貳錢壹毛
- 一、都市計畫特別稅

- 地租割 本稅壹圓に付金壹錢
- 特別地稅 地價壹圓に付金四毛五糸
- 營業收益稅割本稅壹圓に付金壹錢七厘九毛六糸

●自轉車の記號番號附替

本年一月縣令第三號を以て自轉車取締規則を改正四月一日より施行に依り自轉車所有者は其の住所氏名(法人に在りては其の名稱、事務所所在地、代表者

氏名)を所轄警察署に届出で車輛の検査を受け且後輪、泥除けに記號番號の固着封鎖を受けるを要する爲左記要項に依り検査を執行す受檢上遺憾なき様期せられたし

- 一、検査場所 萩町役場
- 一、検査日時 自四月二十日 四日間 毎日 自午前九時 至四月廿三日 至午後四時
- 一、種類 普通自轉車の外發動機付サイドカー オートバイ及小兒用
- 一、記號番號札代 金參拾錢

### ◎特別稅戶數割の申告に就て

昭和六年度特別稅戶數割の課稅標準となるべき所得額の申告期限は、來る四月二十日にして同申告書は曩に區長役場を経て各納稅義務者に配付せるに依り其の所要欄に必要事項を記入し區長役場を経由提出せられ度尙老幼不具癡疾者に係る申告無き者に對しては之を控除せざるに依り留意ありたし茲に謂ふ特

別稅戶數割の納稅義務者とは本町内に於て一戸を構ふる者及一戸を構へざるも獨立の生計を營む者(下宿、合宿、間借等を爲せる者を含む)に該當す

### ◎昭和六年二月分納稅成績

二月分の納稅は田租第二期及特別稅戶數割第三期の二種にして内田租は全部完納となり特別稅戶數割の完納となりたるもの左の十四區なり  
川島第一區、土原第三區、江向第一區、河添第一區、河添第二區、堀内第一區、堀内第二區、上野區、河内區、大屋區、霧口區、北木間區、山田第二區、小原區

### ◎自轉車鑑札を無効と爲したるもの

三月中紛失又は盜難の届出に依り新鑑札を交付したる爲無効處分を爲したる自轉車舊鑑札番號及所有者住所氏名左の如し  
▲印は乙三

右同事件の功に依り頭書の金員を賜ふ

### ◎軍鑑來航

三月三日及三月十八日軍艦大井萩入港海軍兵學校生徒上陸萩史蹟を見學せり

### ◎陸軍記念日に於ける記念武道大會

萩町在郷軍人聯合分會萩町聯合青年團の主催として萩町内男子中等學校及萩警察署と聯合し三月十日午前九時より明倫小學校講堂に於て記念武道大會を開催せり開會に當り國歌合唱會長市川騎兵大佐の勅語奉讀會長の式辭に依り閉式直ちに劍道柔道銃劍術の基本動作に次ぎ明倫小學校高等科兒童其の他の各種普通試合を續行し晝食後有段者の模範試合及優勝試合あり何れも勇壯活潑裡に行はれ午後四時賞狀賞品の授與を了へ豫期以上の盛況を以て此の記念日を過したり

## 軍 事

### ◎叙勳及慰勞金賜與

土原第三區 海軍一等水兵 來原 梅吉  
 右昭和二、三年支那騷亂事件及昭和三年支那事變に於ける功により勳八等瑞寶章及金七拾五圓を賜ふ  
 金七拾五圓 熊谷町區 海軍三等兵曹 長谷元助  
 金七拾圓 唐樋町區 同 水津榮一  
 金五拾圓 香川津北區 海軍一等水兵 鳥田留雄

舊鑑札番號 事由 住所 氏名

四三〇、〇二	紛失	中ノ倉第二區	水野 好一
二二〇、五九	同	玉江第三區	西村 馨
二五、七二	同	唐樋區	藤木與兵衛
一六、六六	盜難	大屋區	淺原 乙一
四三、七五	同	松本市區	水野 ハツ
四三、六四	同	同 區	山根 猪熊
後輪三、二九	紛失	川島第二區	田中 虎熊
二〇、五二	紛失	今古萩町區	牧澤 巖

因に當日の優勝者左の如し

- |     |       |       |
|-----|-------|-------|
| 一等  | 萩分會   | 阿武義輔  |
| 二等  | 萩商業學校 | 堀上三郎  |
| 三等  | 萩警察署  | 野稻久一  |
| 四等  | 越ヶ濱分會 | 富田國太郎 |
| 五等  | 萩商業學校 | 木川茂   |
| 六等  | 同前    | 横山留一  |
| 七等  | 木間青年團 | 西村正三  |
| 柔道  |       |       |
| 一等  | 萩商業學校 | 刀根榮   |
| 二等  | 同前    | 中谷新三  |
| 三等  | 同前    | 上田一夫  |
| 四等  | 樺東青年團 | 岡秋助   |
| 銃劍術 |       |       |
| 一等  | 樺分會   | 宗村正己  |
| 二等  | 越ヶ濱分會 | 石田孫一  |
| 三等  | 樺分會   | 田村文亮  |
| 四等  | 萩分會   | 池田恭一  |
| 五等  | 樺東分會  | 藤村万助  |

六等 萩分會  
七等 萩分會

河村米一  
新宅辰一

●徴兵検査日割

昭和六年萩町徴兵検査日割左記の通決定せらる  
一、日時 七月十五日、十六日、十七日の三日間毎  
日午前七時より  
二、場所 萩町公會堂  
三、抽籤 八月二十九日午前八時より山口縣會議事  
堂に於て施行

●赤十字社並愛國婦人會  
本社總會

日本赤十字社の第三十九回、愛國婦人會の第三十回  
通常總會は例年の通 皇后陛下の行啓を仰ぎ來る五  
月上旬東京市赤坂區青山權田原憲法記念館に於て舉  
行することとなり参列希望者は其の旨町役場兵事  
課に申出でられたし

通 信

●三月分萩郵便局行事

三月十四日 修養講話  
午前十時より河野萩中學校教諭の「新時代と武士  
道」と題する講話を聴講  
三月十六日 事務監察  
當局事務監察の爲廣島逓信局より兒玉、満田、大  
井各書記來局同十九日まで引續き監察を遂げ同日  
午前十一時中村規畫課長より事務監察に對する講  
評あり正午宇部局へ向け出發  
三月二十五日 事務研究会  
午前九時より監察指示事項に關する事務研究会を  
開催諸般事務の改善打合せを遂げ正午散會

●萩郵便局昭和六年三月分  
事務取扱狀況

種 別	前年取扱數	本年取扱數	増 減 數
書留、價格引受	三、三三七	三、三五一	一四
表記通常郵便物	五、六〇三	五、五八九	一四
引受	二、四七九	二、九二五	四四六
小包郵便物	三、七四三	三、八五九	一一六
配達	三、三三三	二、七三六	五九七
發信	二、三三三	二、七三六	四〇三
報著信	五、〇六五	四、四八七	五七八
中繼	二、三三三	二、二四八	八五
電	一、四七七	一、四一六	六一
爲替振出	金額二九、〇八、七九七、六三三、七〇	金額一、四四五、〇〇〇	二、五三八
爲替拂渡	金額五九、〇五二、四〇六、一五九、〇〇〇	金額二、四九六、六二〇	二、五三八
貯金預入	金額三〇、八五〇、五〇四、六五九、四八〇	金額二、二八八、九六〇	二、六六二
貯金拂戻	金額三、一四八、一八五、三、四三、六四	金額五、七五、五二	二、六〇七
保險契約申	金額一、〇〇〇	金額九、〇〇〇	八、〇〇〇
保險料徴收	金額七、八七、九〇	金額八、四一〇、六八〇	五三二、七八〇

年金契約申口數	1	●	●
年金掛金徴口數	五、五〇	●	●
金額	六、二〇	●	●
收	四七、八〇	●	●
金額	七、三〇〇	●	●
	二九、四〇	●	●

### 土木交通

#### ◎町村道路線變更認定

四月一日付を以て町村道の路線を左の通變更認定せり  
 萩町大字椿東字内地第五、九〇七番の一第五、九〇八番の一間の路線を第五、九〇八番の二を經過する路線に改む  
 三月三日山口縣告示第百五十號を以て左記の土地を府縣道山口萩線道路並に其の附屬物の區域に編入の件公示  
 萩町大字唐樋町三九の三番地、三四の一番地、四一の一番地、四二の一番地、三八の一番地、三七の一番地、四三の一番地、四四の一番地、四九の一番地三

五の一番地、三九の二番地以上舊地目宅地萩町大字御許町三九の一番地、四〇の一番地、四三の一番地以上舊地目宅地

### 社會事象

#### ◎地方改善施設費補助金交付

三月三十一日日本縣知事より地方改善施設費として左記金額を交付の旨指令ありたり  
 一金八百五拾八圓 藤ヶ瀬區道路改修費  
 一金百貳拾七圓 北古萩區下水改良費

#### ◎少年職業指導懇談會

三月十一日午後一時より町役場樓上に於て少年職業指導懇談會開催指導講師中央職業紹介事務局囑託文學士谷政秀氏出席者阿武大津兩郡小學校教員補習學校教員訓練所指導員男女青年團長方面委員等約七十名

#### ◎融和週間行事

三月十四日より同二十日迄融和週間中三月十六日午後一時より町公會堂に於て融和問題講演會并に懇談會を開催講師一心會囑託姫井伊介下枝重税の兩氏出席者萩中學校生徒、萩高等女學校生徒、萩町分區委員、學校教員、方面委員、主婦會、婦人會員等約三百名  
 三月十八日午後一時より萩町役場樓上に於て青年融和辯論大會開催辯士本縣社會課主事補稗田實言氏外聯盟員四名出席者聯盟員男女青年團員小學校教員等約二十五名

#### ◎木間區戸主會主婦會聯合總會

三月十九日午前十時より木間小學校に於て第二回木間區戸主會及主婦會の聯合總會を開催兩會長の挨拶會務の報告に引續き協議事項を了りたる後永富本縣

#### ◎公人及私人

農林技手大谷町技手の養蠶渡邊本郡畜産技手の畜牛に關する講演等あり夕暗迫る頃盛會裡に散會したり  
 軍艦大井岩淵砲術長は入港挨拶の爲三月二日町衙に林町長を訪問  
 金子萩町助役は豫て病臥中の處藥石効なく三月二日逝去行年五十三  
 岡田大井艦長は入港挨拶の爲三月三日町衙に林町長を訪問  
 軍艦大井に乗組の海軍兵學校生徒七十四名は三月三日四日上陸町内の史蹟を見學  
 宮地臺灣總督府囑託福政廣島縣神杉小學校長は史蹟見學の爲何れも三月七日來萩

谷口中央職業紹介事務局囑託は稗田本縣社會課主事補と共に少年職業指導懇談會講師として三月十一日來萩

西山山口縣立師範學校教諭は史蹟見學の爲三月十三日來萩

姫井下枝兩氏は融和問題講演會講師として三月十六日來萩

佐藤本縣防疫醫及熊谷本縣屬は萩警察署管内衛生主任集會に臨席の爲三月十七日來萩

賀川豐彦氏は思想問題講演の爲三月十七日來萩

伊勢福本縣統計主事補は學事統計研究會に臨席の爲三月十八日來萩

海軍兵學校生徒七十名は史蹟見學の爲前回同様軍艦

大井に乘組み三月二十一日來萩

淺井佐伯本縣農林技師は夏蜜柑指導地實地調査の爲三月二十四日來萩

菅鐵道省事務官は益子門鐵局副參事と共に萩防府間自動車線路の視察の爲三月二十五日來萩

隨永宇草兩氏は管海事務視察の爲三月二十七日來萩

小串線特牛驛長は遊覽團体員九十名を引卒し史蹟見學の爲三月二十九日來萩

木村本縣屬戸渡本縣土木技手は北古萩町區下水溝及藤ヶ瀬區道路工事竣工検査の爲三月三十日來萩

衛生

昭和六年三月中傳染病

患者の狀況

三月 中	二月 迄	内死亡者數	計
チフス	一人	一人	一人
コレラ	一人	一人	一人
赤痢	一人	一人	一人
計	三人	三人	三人

三月中死亡者埋火葬別

三月中		二月迄		計
火葬	二〇人	三一人	二五一人	五一人
埋葬	一八人	四七人	六五一人	八三一人
計	三八人	八〇人	一一八一人	一五六一人

三月中死亡者病類別

病類別	三月中	二月迄計	合計
腸チフス	一人	一人	二人
コレラ	一人	一人	二人
赤痢	一人	一人	二人
計	三人	三人	三人

感冒	一	一	二
結核	二	二	四
癌及惡性腫瘍	二	二	四
腦膜炎	二	二	四
腦出血及腦軟化	四	四	八
腦の器質的疾患	七	七	一四
急性氣管支炎	一	一	二
慢性氣管支炎	一	一	二
肺炎及氣管支炎	三	三	六
其の他呼吸器病	四	四	八
(肋膜炎)	一	一	二
胃の疾患	一	一	二
下痢及腸炎	一	一	二
脱腸及腸管閉塞	一	一	二
產褥熱	一	一	二
急性腎炎	一	一	二
先天性弱質及乳兒固有の疾患	七	七	一四
老因	一	一	二
外因	三	三	六
其の他の疾患	二	二	四
合計	四一	四一	八二

人民中渡之事

六三 一二五 一七八

萩町の人口動態

昭和六年三月中八四 七 一六二 八六 一三  
 一月中の累計一九〇八一七 四二四 二五九 一五

婚姻 離婚 出生 死亡 死産

三月中出生届出の者

○印は萩町に本籍なき者

區名	戸主の氏名	生年月日
雜式町	虎市三男 永久 敏之	昭和六年二月八日
船津	義助長女 綿貫 雅子	十日
東田町	等四女 津田 光子	三日
浦小畑	義輔二女 三好 安江	廿一日
川島	二良四男 大田 利治	廿日

川島	榮八二男 藤山 和夫	全	四日
越ヶ濱	榮作四女 秋田 季子	全	廿日
奥玉江	政吉曾孫 小田二三子	全	廿三日
中ノ倉	種吉七女 鳥田 静子	全	三月一日
平安古町	要人二男 伊藤 敏夫	全	二月廿二日
奥玉江	耕作庶子男 野原 廣	全	廿日
香川津	長五郎養子 橋本 璋治	全	廿二日
河添	林介二男 山根剛志良	全	廿五日
西田町	小市郎孫 鈴木 五男	全	廿三日
平安古町	幸槌五女 戸倉シズ子	全	廿七日
江向	唯助二男 植木 隆	全	廿二日
藤ヶ瀬	清五郎孫 小川 孝子	全	一月八日
米屋町	孫輔四男 山本 省三	全	二月廿八日
土原	民之進孫 角屋八重子	全	廿日
上五間町	壽三郎三男 吉原弘明	全	十九日
前小畑	禎一四男 阿武 寛義	全	廿六日
倉江	俊一從弟 上領 正夫	全	十九日
小原	助右衛門孫 伊藤房子	全	三月二日
小原	源二郎孫 伊藤 民輔	全	二月廿一日
香川津	文藏長男 中川 尙光	全	廿二日

平安古町	長治孫 武林 元昌	全	十六日
目代	專一甥 藤井 節子	全	二十九日
江向	松藏甥 村岡 義郁	全	十八日
藤ヶ瀬	與宗三女 藤田 春子	全	二月廿八日
玉江浦	七五郎二男 小橋幾夫	全	廿二日
雜式町	清一長男 久芳 利夫	全	廿七日
江向	清二女 白井美登里	全	廿六日
鶴江	善吉六女 住田 桂子	全	廿二日
香川津	岩松三男 渡邊 一馬	全	大正十三年八月七日
玉江浦	三吉二女 角屋ミツ子	全	昭和六年三月廿七日
鶴江	千吉庶子男 中村 豊	全	三月三日
浦小畑	惣一庶子女 上田ハツ子	全	四日
松本市	吉三庶子女 山田ラル子	全	二月廿七日
玉江浦	甚吉三女 檜崎ミサ子	全	廿四日
香川津	鐵正長女 山田チエ子	全	三月廿七日
濱崎新町	鏡藏長男 福田 靖	全	三月二日
全	秀一四男 藤田 五郎	全	二月廿二日
全	全 五男 藤田 淳一	全	二月廿二日
土原	浩太長女 岡村 芳枝	全	二月廿六日
河内	萬槌四女 田村 末子	全	三月八日

今古萩町	代右衛門九女 坂倉伊都子	全	三月一日
目代	貞槌三女 三戸スミ子	全	二月廿四日
江向	光治孫 久保田 翠	全	廿七日
稚原	巧長男 多田 迪雄	全	三月二日
濱崎町	鶴一長男 岡 弘	全	大正十三年八月三日
木間	義介五男 山縣 一人	全	昭和六年一月五日
濱崎新町	與三郎四男 迫田春政	全	三月六日
川島	茂四女 小林 昭江	全	昭和五年九月四日
橋本町	新治孫 古林 静子	全	昭和六年三月一日
土原	清太郎孫 下村 繁人	全	二月廿五日
濱崎町	吉一孫 岡 京子	全	三月三日
鶴江	正一長男 村木 輝正	全	三月二日
熊谷町	四方藏孫 松本 矩典	全	二月廿六日
前小畑	友熊二男 田村 義治	全	三月三日
濱崎町	勇熊長男 見嶋 一夫	全	五日
鶴江	長重三男 中村 慎作	全	三日
倉江	久槌二女 金子惠美子	全	三月八日
玉江浦	平七姪 永富美津子	全	三月八日
濱崎町	三郎孫 大庭 一二	全	三月二日
越ヶ濱	吉藏孫 石飛 利之	全	三月二日

濱崎新町	正二男	伊藤 義雄	大正十四年三月十日
川島	新輔孫	大多和千世	昭和六年三月七日
惠美須町	壽治長女	波内富美子	全
河添	米太郎五男	上田 治男	全 二月廿二日
今古萩町	金輔長女	伊藤 敏江	全 三月六日
平安古町	忠廣長男	内田 忠幸	全 三月六日
越ヶ濱	鶴松四男	本常 五郎	全 二月二日
玉江浦	一政二女	中屋 滿江	全 二月二日
米屋町	豐三六女	柳川 幸子	全 三月
藤ヶ瀬	與宗四男	藤田 充	全 二月十八日
越ヶ濱	清四男	廣瀬 潮定	全 二月十七日
御許町	久松四女	長谷川 光子	全 三月一日
稚原	武忠長女	椿 麗子	全 三月
無田ヶ原	虎吉孫	齋藤 貞子	全 六月
浦小畑	新太郎四男	松屋 政吉	全 六月
西田町	義直二女	熊丸 節子	全 五月
笠屋	トミ孫	中村キミコ	全 二月廿八日
江向	一成長男	有田 和男	全 三月六日
稚原	喜一姪	田中 和子	全 三月八日
土原	武一長女	岡崎 和子	全 三月八日
江向	貞一六女	海老名 幸	全 三月七日
堀内	英熊孫	村田 和英	全 三月十日
稚原	九市甥	檜垣 八郎	全 八月
古萩町	信幸長女	河村 初枝	全 九月
北古萩町	カツ孫	古屋 直好	全 五月
玉江浦	正市三女	上領チヨ子	全 十一月
江向	傳介五男	河野 幸男	全 十一月
川屋敷	仁介孫	平井シズコ	全 五月
玉江浦	伊勢松長女	三好 芳江	全 十二月
大谷	吾一七男	岩田 和男	全 三月
北古萩町	傳介三女	松岡屋 光枝	全 三月
全	信行四女	楢 博子	全 十一月
香川津	竹松孫	松田智枝子	全 十二月
前小畑	清槌二男	佐伯 厚次	全 七月
越ヶ濱	清造四男	松木 勇	全 九月
江向	卯吉三女	金子 利子	全 七月
濱崎町	常吉孫	吉田 達也	全 三月
古萩町	重槌七男	岡田 保	全 四年十月二十七日
江向	英男庶子女	山本 京子	全 三年十月廿四日
北古萩町	久女孫	東 文二郎	全 六年三月九日

平安古町	正熊孫	中野 勝實	全 二月十九日
米屋町	正一二女	倉田美惠子	全 三月十日
川島	仲之進孫	平野 慶子	全 七月
土原	繁藏二男	杉山 友助	全 十七日
平安古町	米槌二女	中島喜代子	全 十一月
前小畑	市藏長女	古見 和子	全 十四日
奥玉江	鶴松孫	來島 浪子	全 十月
今古萩町	和一郎甥	林 陽一	全 十四日
香川津	良介三女	嶋田美智子	全 十三日
濱崎町	征一孫	小野 順子	全 十五日
上野	荒太郎孫	長屋惠美子	全 十三日
青海	潔三姪	齋賀 敏子	全 十七日
濱崎新町	猛市二女	赤木 久世	全 十六日
濁淵	傳造四女	永留美代子	全 十九日
鶴江	龜太郎長女	中村 節代	全 十二月
津守町	八十甥	大田 進	全 十五日
無田ヶ原	常右衛門二男	小川 猛	全 二十日
鶴江	德松三男	鈴木 博之	全 廿八日
平安古町	敏槌二女	板垣 靖子	全 二十日
越ヶ濱	市郎三女	石飛ヒナ子	全 十四日
全	幸吉孫	楳本 靜江	全 十三日
全	音松三女	阿部 幸子	全 十三日
全	末杉三男	末武 末次	全 廿六日
前小畑	謹兵衛孫	泉 正志	全 二十日
濱崎町	熊次郎孫	金子 嘉彦	全 十四日
後小畑	吉之助孫	小野村啓次良	全 十六日
青海	為吉孫	有田 惠子	全 十八日
北古萩町	國助姪	綾木 初子	全 十二月
鶴江	清藏二男	中村 章	全 十五日
玉江浦	五郎吉孫	小橋ふみ子	全 十六日
山田	武兵衛孫	藤本 武春	全 廿二日
越ヶ濱	庄吉孫	榎本 音松	全 十五日
北古萩町	坂治郎全	和泉屋 瞳	全 十八日
土原	傳全	野中 克己	全 十三日
堀内	篤二女	吉野 滋	全 十四日
大谷	新十孫	土屋 純夫	全 十四日
北古萩町	常吉全	松岡美喜枝	全 十九日
東濱崎町	初太郎庶子女	藤原朝子	全 十三日
小原	和三郎孫	伊藤 三郎	全 三月
中倉	長之助姪	奥山 住江	全 廿四日

樽屋町	正輔五女	長井タケノ	全	二十日
中ノ倉	竹松長女	金子重子	全	二十日
浦小畑	亡百合松四女	藏山芳江	全	廿三日
鶴江	彦太郎長女	中村惠美子	全	十六日
倉江	次郎五女	松本京子	全	十八日
玉江浦	穂五郎四女	横田トキ子	全	十七日
河添	音一長女	渡邊貴美子	全	十六日
濁淵	友一二女	平田幸子	全	十五日
鶴江	万助長男	岩崎恭一	全	十九日
土原	貞吉孫	井上實夫	全	二十日
細工町	壤一從妹	尾崎安子	全	十七日
堀内	末吉三女	小林壽女子	全	二十日
江向	茂一孫	樽屋寛	全	十三日
越ヶ濱	仁五郎二男	出羽政男	全	十七日
木間	仁三郎二男	堀敏雄	全	廿三日
奥玉江	千代松孫	井上幸一	全	十一日
熊谷町	庄藏全	品川卓之	全	十七日
越ヶ濱	太作四女	井町春子	全	十一日
山田	吉三郎三男	古屋巖	全	廿六日
熊谷町	孫三郎孫	吉井豊子	全	二十七日

浦小畑	吉松全	○坪井二郎	全	三年四月廿二日
浦小畑	吉松全	井町敏雄	全	昭和四年十二月六日
玉江浦	仙一長女	森初子	全	六年三月廿三日
樽屋町	政三三女	中村安子	全	廿四日
上野	清吉長男	杉山吉利	全	廿三日
越ヶ濱	勝一長女	佃政一	全	廿五日
全	庄一長女	木村ト子	全	廿三日
古萩町	四郎長男	渡邊閑	全	廿八日
東濱崎町	三吉庶子男	○松浦彼吉	全	十八日
川島	真一長男	山根明	全	二十日

●三月中死亡届出の者

○印は萩町に本籍なき者

土原	榮藏長男	長田貞熊	全	三月五日
濱崎新町	戸主	室屋植藏	全	二十日
笠小屋	鶴松祖母	平野フシ	全	二十六日
堀内	孝一母	榎原タミ	全	二十六日
江向	浅一妻	中村ツル子	全	二十七日
河添	満長男	篠原信太郎	全	二月二十七日
濱崎新町	秀一四男	藤田五郎	全	三月二十七日
中ノ倉	健介養母	吉村モト	全	二十九日
河内	萬槌四女	田村末子	全	二十八日
濱崎新町	寅七甥	堀孝一	全	二十六日
古萩町	常一二女	○守田ハル子	全	二十三日
前小畑	利七六男	泉猛	全	十日
鶴江	勘四郎三安	吉村ミサヲ	全	九日
樽屋町	戸主	内藤魁	全	二十七日
熊谷町	戸主	三好鶴藏	全	二十二日
玉江浦	戸主	藤崎市松	全	十八日
堀内	仙英長女	櫻井一女	全	十七日
平安古町	カメ二女	○荒川ヨシ	全	十八日
濱崎新町	戸主	守永正之進	全	十八日
山田	戸主	武田五郎吉	全	十日

奥玉江	耕作庶子男	野原廣	全	二月二十日
川島	友吉二女	西島ヒサ	全	三月二日
唐樋町	榮槌妻	高橋フサ	全	二月廿八日
香川津	帝之助四男	○原田由一	全	一月十七日
平安古町	幸槌五女	戸倉シズ子	全	三月二日
東濱崎町	戸主	松浦留吉	全	十三日
船津	戸主	金子清一	全	二日
津守町	秀一弟	○片山新一	全	全
米屋町	孫輔四男	山本省三	全	十三日
濱崎新町	辰次郎孫	内田貞子	全	三年二月七日
上五間町	戸主	池田万藏	全	六年三月二日
河添	精一妻	○渡邊キク	全	十三日
全	仲之助二男	安田茂	全	十五日
前小畑	戸主	岡田逸右衛門	全	十五日
中ノ倉	久次母	鳥田クメ	全	四日
河内	喜代松養母	杉山マツ	全	十三日
濱崎新町	芳之助姉	梅尾ナツ	全	十四日
奥玉江	勇吉母	岸マユ	全	十五日
川島	實妻	西田キク	全	二月十六日
上野	戸主	河野幹之祐	全	二十六日

土原	榮藏長男	長田貞熊	全	三月五日
濱崎新町	戸主	室屋植藏	全	二十日
笠小屋	鶴松祖母	平野フシ	全	二十六日
堀内	孝一母	榎原タミ	全	二十六日
江向	浅一妻	中村ツル子	全	二十七日
河添	満長男	篠原信太郎	全	二月二十七日
濱崎新町	秀一四男	藤田五郎	全	三月二十七日
中ノ倉	健介養母	吉村モト	全	二十九日
河内	萬槌四女	田村末子	全	二十八日
濱崎新町	寅七甥	堀孝一	全	二十六日
古萩町	常一二女	○守田ハル子	全	二十三日
前小畑	利七六男	泉猛	全	十日
鶴江	勘四郎三安	吉村ミサヲ	全	九日
樽屋町	戸主	内藤魁	全	二十七日
熊谷町	戸主	三好鶴藏	全	二十二日
玉江浦	戸主	藤崎市松	全	十八日
堀内	仙英長女	櫻井一女	全	十七日
平安古町	カメ二女	○荒川ヨシ	全	十八日
濱崎新町	戸主	守永正之進	全	十八日
山田	戸主	武田五郎吉	全	十日

河添	林介二男	山根剛志良	全	二十一日
平安古町	戸主	大迫音熊	昭和五年十二月六日	
玉江浦	俊一第	上領正夫	全	六年三月十三日
香川津	竹松妻	松田ミチ	全	十四日
奥玉江	糸一弟妻	岸ヨシロ	全	十三日
土原	好介母	大田コト	全	十日
香川津	長五郎養子	橋本璋治	全	十四日
米屋町	戸主	齋藤榮五郎	全	十五日
吉田町	アイ養母	柴田ヒツ	全	十四日
堀内	規矩男祖母	繁澤フシ	全	十六日
惠美須町	精一母	寶迫キク	全	十六日
玉江浦	亡五郎弟	永富三助	全	十五日
椎原	戸主	齋藤チヨ	全	
松本市	健吉母	後藤ツル	全	
後小畑	吉松孫	中村智壽江	全	十八日
濱崎新町	秀一五男	藤田淳一	全	十七日
古萩町	重槌七男	岡田由保	全	十三日
鶴江	清藏叔父	石川繁	全	十五日
霧口	戸吉主	河崎平藏	全	十九日
濁正	淵戸主	塩見堅一	全	十八日

越ヶ濱	一男祖母	門司ヲツ	全	十九日
雜式町	吉五郎弟	田中百合一	全	十六日
前小畑	淺松庶子男	山本末浩	全	十八日
樽屋町	金槌孫	竹下龜一	全	六日
土原	登槌長男	奈古屋秋雄	全	十八日
唐樋町	槌一妻	高橋ツネ	全	二十九日
古萩町	信幸長女	河村初枝	全	二十二日
無田ヶ原	常右衛門二男	小川猛	全	
浦小畑	甚吉妻	河口キミ	全	
今古萩町	岐一養女	東ハタル	全	二十三日
鶴江	龜一妻	村木ヒサ	全	二十二日
香川津	幸槌三女	岡田千代	全	二十四日
上五間町	戸主	高橋仙吉	全	二十三日
河添	戸主	田村象植	全	二十五日
東田町	戸主	柴田米藏	全	二十一日
越ヶ濱	長藏養父	深野幸作	全	二十七日
東田町	文男姉	田村タキ子	全	二十六日
前小畑	清吉四女	阿武イト	全	二十六日
瓦崎町	戸主	東谷雅輔	全	二十二日
椿町	治三郎妻	藤田キヨ	全	二十九日

◎三月中出入寄留者數統計

鶴江	柳熊三女	吉村富士惠	全	
上野	要治妻	岡本ヒサ	全	
前小畑	重郎二女	寺田玲子	全	二十四日
古萩町	四郎長男	渡邊閃	全	二十九日
越ヶ濱	辰藏祖母	阿部サナ	全	三十日
濱崎新町	戸主	長富千代藏	全	
川島	忠一二女	柳井アッコ	全	卅一日

計 一月以降累計

出寄留	男	女	計
	三〇人	三八人	六八人
退去	二三	七	三〇
計	五三	四五	九八
入寄留	七二	八〇	一五二
復歸	八	一二	二〇
計	八〇	九二	一七二
			三五

◎三月中出寄留及退去届出の者

○印は退去者

區名	戸主の氏名	出寄留又は退去年月日
土原	増一養女○大井節子	昭和六年二月廿六日
前小畑	正一二男 廣屋幸作	同 二十四日
今古萩町	英一母 中澤マヌ	同 二十三日
大屋	繁信妹 大谷スミエ	同 三月二日
江向	戸主 中村正三	昭和五年十月一日
同	妻 長女 同	同
同	妻 同	同
同	妻 同	同
濱崎新町	戸主 山本英男	同 六年三月二日
北古萩町	宗一五男 岡村昌葉	同
御許町	龜一長男 岡村清作	同 三日
同	四男 村田正	同 四日
同	同 同	同
唐樋町	龜吉長男 原田義光	同 十一日
今古萩町	代右衛門 坂倉伊都子	同 一日
玉江浦	九三ノ孫 角屋ウツ子	同 五月
江向	戸主 讚井毅一	同 二月十三日
同	妻 同	同 三月一日
同	妻 同	同
同	妻 同	同



◎三月中入寄留及復歸

届出の者

○印は復歸の者 ▲印は町内轉寄留の者

名 世帯主の續柄 氏 名 入寄留又は復歸年月日

河添 世帯主 ▲山根 林介 昭和六年二月二十日  
 全 妻 ▲全 ミチヨ 全  
 全 三女 ▲全 梶枝 全  
 全 四女 ▲全 忠子 全  
 全 二女 ▲全 登美子 全  
 全 長男 ▲全 登基 全  
 全 吉次郎母 伏谷 タネ 全  
 後地 世帯主 納富逸右衛門 全  
 全 二女 全 セツ子 全  
 全 長男 全 是 全  
 全 長女 全 シモエ 全  
 全 四女 全 廣惠 全  
 東田町 中村九一孫 天住 貞子 全  
 江向山本富吉三男 阿部 隆 全  
 同 唯助二男 植木 隆 全

吉田町 世帯主 杉山 マツ 全 二月二十日  
 川島 世帯主 ▲山本 賢夫 全 三月一日  
 全 妻 ▲全 マサ 全  
 全 二女 全 房代 全  
 西田町 捨吉庶子男 ▲小松 治雄 全  
 東濱崎町 丑槌五男 山本 庄次 全  
 古萩町 世帯主 ▲池田甲太郎 全  
 全 妻 ▲全 ステ 全  
 濱崎町 世帯主 大田 竹二 全 二月十日  
 北古萩町 世帯主 矢橋 松一 全 三月一日  
 全 妻 全 ヤエ 全  
 全 長女 全 艶子 全 三月十二日  
 全 長男 全 良策 全  
 堀内 堀本タケ 菅原 義一 全 一月廿一日  
 堀内 縁故者 菅原 増一 全 二月二十八日  
 全 世帯主 ▲大井 増一 全 二月二十八日  
 全 妻 ▲全 ヒサヨ 全  
 全 二女 全 清子 全 三月一日  
 吉田町 世帯主 ▲猪野 ヨシ 全  
 全 長女 ▲全 芳枝 全

全 長一男 ▲全 忠治 全 十六日  
 唐樋町 世帯主 吉野 信吉 全 三日  
 全 縁故者 岩川 タカコ 全  
 大屋 伊藤喜代 門川 君枝 全 一日  
 全 甥 全 克己 全 十日  
 東田町 世帯主 齋藤彌之助 全 五日  
 全 三女 全 榮子 全  
 西田町 村田利八從弟 田中芳治 全  
 北古萩町 徳助長女 森山 榮子 全 七日  
 今古萩町 世帯主 大中 正義 全 一日  
 全 妻 ▲全 蝶 全 十三日  
 全 大中正義 岸田 剛一 全  
 全 縁故者 保美香 全 九日  
 全 世帯主 石井 廣 全  
 土原 世帯主 石井 廣 全  
 濱崎町 世帯主 正本 富藏 全  
 全 妻 全 アキ 全  
 全 長男 全 勝 全  
 北古萩町 香川津 ▲全 久雄 全  
 全 妻 ▲全 たいけ 全

全 長男 ▲全 光彦 全  
 船津 世帯主 松井 市誠 全 九日  
 全 長男 全 民治 全  
 沖原 世帯主 宗村 伊八 全 二月二十五日  
 船津 重五郎長男 河村 一雄 全  
 江向 亡津四郎孫 木村 マッノ 全 二月二十八日  
 川島 世帯主 ▲松田 國藏 全 三月一日  
 全 妻 ▲全 ヒサ 全  
 全 長男 ▲全 武雄 全  
 全 二男 ▲全 芳雄 全  
 香川津 與之助長女 原田 ヤス子 全 十日  
 江向 安間トシ孫 瀬能 律子 全  
 土原 世帯主 ▲大田 武男 全  
 青海 信輔二男 田村 秀夫 全 五日  
 濱崎新町 世帯主 室屋 アキ 全 三日  
 全 二男 全 博太 全  
 全 長女 全 久子 全  
 全 二女 全 房子 全  
 全 世帯主 森田 ハツ 全  
 全 弟 世帯主 治良 全 十三日





キチガヒナスビ——これは元來日本産の植物では  
ありませんが七八月頃が花の候です、果實殊に葉に  
は激しい毒がありますその毒は「ヒヨスチアミン」  
外に「アトロピン」それに「スニボラミン」などいふ  
アルカロイドであります、是等のアルカロイドは何  
れも中樞神経に作用して麻痺を起すものであります  
昔はこの葉を煙草の様にして喘息患者に喫煙させ  
たものであります。種類は色々あります

その他ツタウルシ、キツネノボタン、クララ、ト  
リカブト、テンナンショウ、タケニグサ、フヂウ  
ツギ、センニンサウ、クサノワウ、タガラシ等も  
有毒植物でありますから注意を要します。

### ◎興味本位の食物には 榮養價が少い

季節外れの食物も好ましくない  
美食をすれば榮養状態が良くなるかといふと決して  
さうではありません高價な食物が必ずしも榮養價が

多い譯ではありません更に食品でも部分によつて榮  
養價の多い處と少い處とがあります。一「植物性」  
そこで美味しい部分ばかりを食べてゐる御主人夫  
婦が榮養状態がよろしくなく瘦せてゐるのに比し  
て女中は大概肥つて居ります。女中は御主人より  
も美味しくない部分を食べて居りますが、その方  
面に榮養價が多いからです。一「動物性」  
なほ自分の體質や職業或は労働等を考へずに特殊な  
食養法などに迷はされ、又は興味をひいて食べるの  
なんかも好ましい事ではありません。すべて變つた  
好み、變つた風味も榮養を土臺にしなければいけま  
せん。一「高價な刺戟物を好んで食べたり變つた好みの  
ものを食べたりするのは榮養上有害無益です。な  
は美味しくする爲に調味料を用ひるのも好ましい  
事とは云へませんが、調味料の一つとして醬油は案  
外榮養になりません。何れにしても成分の偏した  
食べ方はよろしくありません。すべて動物性と植  
物性とを適度に配合して用ふべきです。小食にす  
ざると榮養分の不足を生じます。季節外れのもの

等もまた榮養的に見て好ましくありません。

### ◎三月中萩町日誌

(本月報登載外のもの)

- 五日 縣立萩高等女學校本科定員増加の件に付林町  
長縣廳に出頭即日歸廳
- 故金子助役の葬儀を蓮正寺に於て執行
- 七日 内親王殿下御誕生の公報に接し煙火を打揚ぐ  
林町長家事務の爲郷里に歸省
- 十日 多越報徳會を多越神社内に於て開催  
林町長歸廳
- 十七日 元阿武郡役所に於て萩警察署管内各町村衛  
生主任集會開催
- 二十日 縣立萩高等女學校卒業式舉行林町長臨席
- 二十二日 林町長軍艦大井訪問
- 二十五日 財團法人萩婦人會私立修善女學校卒業式  
舉行林町長臨席
- 二十八日 鐵道省營自動車の件に付林町長縣廳に出  
張即日歸廳





# 稟告

萩月報の使命とする所は町民諸子をしてより多くが自己の町勢を理解し率て以て愛町の觀念を旺盛ならしめむとするに在り換言すれば本月報をして町民諸子の自治制度上に於ける常識として唯一無二の絶好讀物たらしめ相倚りて町將來の福祉を増進し所謂町格を向上せむことを冀ふものなり。

幸にして發行以來年と共に購讀者數を増加し編輯上其の責任の重大なるを感せらるゝにより今後は一層登載事項の蒐集選擇に力を注ぎ以て讀者各位の期待に副はむことを欲す之を諒とせられむことを。

萩月報編輯者

## 發行要項

- 一、發行 毎月一回十五日發行
  - 一、購讀料 一ヶ月金 拾八錢(郵税共)  
六ヶ月分 金 壹圓(同上)  
一ヶ年分 金壹圓八拾錢(同上)
- 昭和六年四月十三日印刷  
昭和六年四月十五日發行

編輯兼發行者 萩町長 林 勇 輔

山口縣阿武郡萩町大字西田町五十五番地

印刷者 荒瀬 徳 治

山口縣阿武郡萩町大字西田町五十五番地

印刷所 信清舎印刷所

發行所 山口縣萩町役場

郵務(下)局 二七三六番

山口縣阿武郡萩町大字西田町五十一番地

取次所 藤川書店

萩月報

昭和六年四月十三日印刷納本  
昭和六年四月十五日發行

昭和五年五月六日  
第三種郵便物認可

毎月 十五日發行 第三十七號